

## From the Editor

デジタルテクノロジーを駆使したイノベーションへの期待は高まるばかりである。PoC(概念実証)プロジェクトばかりだ、などと揶揄する向きもあるが、着実に成果を上げている事例が続々と登場しており、我々がITあるいはICTと呼び習わしてきた分野での技術とその応用による成果に急激な変化が生じていることは疑い得ない。そこで今号のSOFTECHSでは、当社が関わっているデジタルイノベーションの事例やそうした動向についてのオピニオンを中心に企画・構成した。

### ■ 金融機関に向けた新主流クラウドビジネス展開

当社は国内ベンダーとしては比較的早い時期からAWSの活用に取り組み、2012年4月にはAWSを活用したクラウドサービスをリリース、導入実績を着実に増やしてきた。このノウハウと金融分野のシステム構築ノウハウを融合し、金融機関向けに最適なクラウドサービスを展開しており、その経緯等を紹介している。金融機関が導入に積極的なAIなどデジタルテクノロジー活用において、クラウドは主要なプラットフォームとなっていることから、さらなるサービス開発が進められている分野である。

### ■ 金融向けビジネスにおけるブロックチェーンの取り組み

ブロックチェーン技術の適用分野はフィンテックばかりではない。AI、IoTなどとともデジタルイノベーションを実現する技術として期待されている。当社では、金融機関向けサービスを展開している部門がまずはフィンテックとして着目し、今では他業界も視野にブロックチェーン技術の様々な適用方法を検討している。その過程で実施した実証実験結果などについて報告している。

### ■ IoT製品の開発、製造についての当社の取り組み事例から

実際の経験をもとに、IoT製品の企画立案から製品開発、製造、運用に至るまでのプロセスと留意点についてまとめたものである。当社は基本的にソフトウェアやサービスの会社であり、ハードウェア開発を自ら手掛けることはなかったが、デジタルテクノロジーでは情報通信技術だけでなくロボティクス、IoTデバイスなどへも利用技術の範囲が広がっていることを受け、こうした領域にも踏み出している。

### ■ 明日の世界を担うアジアITの熱い息吹～JISA国際活動を通じて～

本稿の筆者は、業界団体である情報サービス産業協会(JISA)の国際活動に長年参画し、海外視察の経験も多い。その過程で近年は、アジア諸国におけるICT産業とデジタルビジネスの勃興を肌で感じており、顧みて日本の現状に歯がゆさを覚えることもあるという。そうした想いを見聞とともに率直にしたためてもらった。

### ■ 製薬業界向けソリューション開発への取り組み

製薬業界向けソリューションは、当社のほぼ創業時からの事業であり、今日も新規ソリューションの開発や既存ソリューションのリニューアルに日々取り組んでいる。また、AIなど新技術の活用も重要なテーマとなっている。ここ1年ほどの間のそうした取り組みについて紹介している。

### ■ JISA中学校デジタル化プロジェクト参加報告～ITを活用した教育の高度化への挑戦～

情報サービス産業協会(JISA)では、デジタルビジネス革命をリードすべく様々な取り組みをしているが、中学校デジタル化プロジェクトはその1つである。デジタル技術を活用して中学・高校の教育を高度化すること、それを通じて未来の日本を背負う人材の恒久的輩出の仕掛けづくりを行なうことが主な狙いである。このプロジェクトには当社も深く関わっていることから、これまでの活動の概要を本稿にまとめた。

当社、株式会社シーエーシーは、2018年初頭から新たな中期経営戦略をスタートさせた。ビジョンには「新デジタルビジネスを成長の柱とするモデルへの変貌」を掲げている。むろん、冒頭で述べたデジタルイノベーション時代の到来を踏まえてのものである。今号もそれに呼応するものになったと思う。次号では、さらに多くの事例を紹介できることになると考えている。

(K)